

令和元年度

## 事業報告書

(自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)

### I 事業の概要

#### 1 農作物共済

##### (1) 水 稲

引受面積は、一筆方式20,411ha、品質方式1.2ha、合計20,412ha（対前年比78.2%）、共済金額は11,697,791千余円（対前年比80.0%）となった。また、収入保険には133戸、1,289.7haが移行した。

作柄は、各作期とも好天に恵まれ田植作業後の活着も良好で初期生育は順調だった。

出穂期は早期栽培及び早植栽培は平年より遅れたが、普通栽培では平年並み、登熟期間は高温多照で推移し、成熟期は平年並みか早くなった。入梅は、平年より1日早く6月7日頃、梅雨明けは平年より3日遅い7月24日頃で気温が高温で推移したことにより登熟不良が心配されたが、注意喚起には至らなかった。また、台風10号、15号、19号、21号と度重なる台風により収穫は遅くなった。

被害については、台風15号、19号等による大雨、河川の氾濫等による風水害、曇雨天による、いもち病、縞葉枯病等の病害の他、一部地域では獣害、虫害が発生した。

一筆方式は通常災害となり、支払共済金は19,517千余円、品質方式の支払はなかった。

##### (2) 陸 稲

陸稲の引受はなかった。

##### (3) 麦

引受面積は、一筆方式3,561ha、災害収入共済方式591ha、合計4,152ha（対前年比91.3%）、共済金額は1,085,617千余円（対前年比93.3%）となった。また、収入保険には44戸、450.6haが移行した。

作柄は、11月から12月好天に恵まれ碎土作業、播種作業は順調に進み出芽、生育ともに例年より早かったが、その後、降水量が少なく乾燥により生育の勢いが止まった。3月に入ると気温が高く、降水量、日照時間が多くなり生育は順調に推移した。

3月下旬から4月上旬は低温、降霜の影響で生育が停滞したが、その後気温は高く、降水量も少なく、日照時間が多くなり梅雨入り後、刈取りが遅れて枯れ熟れが発生した。

被害については、初期生育期に干害、降霜による凍霜害が発生し、減収及び品質が低下した。

一筆方式の支払共済金は4,963千余円、災害収入共済方式の支払共済金は、14,069千円で両方式とも通常災害となった。

## 2 家畜共済

引受は、畜産農家の高齢化・後継者不足、飼料の高騰、環境問題等により戸数及び資源頭数が減少している。制度改正により前年比較は困難だが引受戸数は、11戸減（12戸減、1戸増）の213戸であった。共済金額は死廃共済で22億7千3百万余円、病傷共済で1億5千3百万余円であった。

共済事故は、死廃共済金が、130,044千余円（対前年比96.1%）、病傷共済金は、121,252千余円（対前年比99.8%）であった。

## 3 果樹共済

### (1) なし

#### ア 半相殺減収総合方式

令和2年産引受面積は、中部統括、北部統括、東部統括すべてが短縮方式の引受で4,929.1a（対前年比93.5%）となった。これは新規引受があったものの農家の高齢化及び後継者不足による廃園、収入保険への移行（5戸、190.5a）、規模縮小等により減少となったものである。

令和元年産のなしの作柄は、3月の高温により開花時期が平年より1週間ほど早まった。5月4日には県中央部を中心とする降ひょうがあり、防災施設のない園地では傷果が発生した。その後、6月から7月にかけて長く続いた梅雨により、収穫の早い幸水は小玉傾向となり出荷量も平年よりやや劣った。梅雨明け後は、気温がかなり高く日照時間も平年を上回ったことで、中生、晩生の品種の肥大は良好であったものの日焼け果が多く発生した。

令和元年産被害は、ひょう害、その他気象上の災害（日焼け果）、虫害（カメムシ、シンクイムシ）等により、支払共済金は11,579千余円で異常災害となった。

#### イ 樹園地単位減収総合方式

令和2年産引受面積は、中部統括、東部統括で短縮方式の引受があり1,478.7a（対前年比76.1%）となった。これは、半相殺減収総合方式への移行、収入保険への移行（1戸、102.6a）と農家の高齢化及び後継者不足による廃園等により減少となったものである。

令和元年産被害は、ひょう害、その他気象上の災害（日焼け果）、虫害（シンクイムシ）が発生し、支払共済金は653千余円で通常災害となった。

### (2) ぶどう

#### ア 半相殺減収総合方式

令和元年産引受面積は、中部統括、北部統括、東部統括すべてで短縮方式の引受があり、453.2a（対前年比93.4%）と31.8aの減となった。これは新規引受があったものの農家の高齢化及び後継者不足による廃園、収入保険への移行（2戸、17.0a）、規模縮小等により減少となったものである。

令和元年産被害は、長期の梅雨による病害（晩腐病、灰色カビ病）、ひょう害、虫害（カメムシ）、その他気象上の災害（日焼け果）が発生し、支払共済金は3,339千余円で異常災害となった。

#### イ 半相殺特定危険方式

令和元年産引受面積は、東部統括管内で減収ひょう害方式の引受があり444.4 a（対前年比84.1%）となり、高齢化による規模縮小、半相殺減収総合方式への移行のため減少となった。これは農家の高齢化及び後継者不足による廃園、収入保険への移行（2戸、59.0 a）により減少となったものである。

令和元年産は、無被害であった。

#### ウ 樹園地単位減収総合方式

令和元年産引受面積は中部統括及び北部統括管内で短縮方式の引受があり155.0 a（対前年比89.9%）となり、17.5 aの減となった。

令和元年産被害は、長期の梅雨による病害（晩腐病）が発生し、支払共済金は436千余円で異常災害となった。

### 4 畑作物共済

#### (1) 大豆

引受面積は、一筆方式49ha、全相殺方式129ha、合計178ha（対前年比59.3%）、共済金額は25,890千余円（対前年比61.2%）となった。また、収入保険には12戸、99.3haが移行した。

作柄は、梅雨の影響で播種作業が遅れ、明け後の8月上旬は降雨がなく、土壌表面の硬化によって、播種作業が遅れた耕地では、発芽不良及び生育不良がみられた。

8月中旬以降は台風10号、15号、19号等によって耕地が冠水し莢が水や泥をかぶった。さらに強風によって倒伏した耕地も多く冠水による影響を助長した。

また、台風19号によって荒川が増水し、土砂流入により収穫皆無となった耕地があった。

被害については8月上旬の高温乾燥、台風10号による土壌湿潤害、台風15号、19号による雨害湿潤害、風水害によって減収した。

支払共済金は、第1区分（一筆方式）については、277千余円で通常災害となった。第2区分（全相殺方式）については、5,717千余円で異常災害となった。

#### (2) 茶

令和2年産の引受面積は、半相殺方式14ha（対前年比78.5%）、共済金額は9,302千余円（対前年比81.1%）となった。

令和元年産の作柄は、暖冬で生育は順調に進んだが、3月下旬から低温に推移し、萌芽期以降の新芽の生長が抑制された。萌芽期は4月18日から25日頃で、摘採期は5月9日から5月23日頃であった。4月28日と5月8日に晩霜があり、新芽の枯死等が見られた。

被害については、4月28日と5月8日の晩霜により凍霜害が発生し減収となった。支払共済金は1,451千余円で異常災害となった。

### (3) スイートコーン

引受面積は、全相殺方式8.7ha（対前年比70.7%）、共済金額は13,859千余円（対前年比75.8%）となった。

作柄は、3月中旬までは順調に推移したが、3月24日に降霜があり、生育阻害や葉の一部が枯死する等の耕地がみられた。また、5月上中旬に播種が行われた耕地では、降雨が少なく乾燥状態が続いたため発芽不良がみられた。収穫は、梅雨の影響で遅れがみられた。

被害については、降霜による凍霜害、一部の耕地で干害、獣害が発生し減収となった。支払共済金は、225千余円で通常災害となった。

### (4) 蚕 繭

引受箱数は、102.50箱（対前年比48.9%）、共済金額は6,356千余円（対前年比51.3%）となった。

春蚕繭の被害等については、秩父地域の桑園で凍霜害が発生し桑葉不足が生じたが、他蚕期用の桑園で代用したため減収とはならなかった。5月中旬から6月上旬にかけては、寒暖差の大きい日が続き、蚕児の抵抗力が弱まり一部農家で膿病が発生し減収となった。支払共済金は16千余円で通常災害となった。

初秋蚕繭の被害等については、春蚕繭からの桑葉不足により掃立箱数の減少が懸念されたが、桑の生育、上簇は順調に進み、予定どおり掃立され被害はなかった。

晩秋蚕繭の被害等については、4齢期から5齢期に極端な気温の変化によって蚕児の抵抗力が弱まり軟化病が発生し減収となった。支払共済金は30千余円で通常災害となった。

## 5 園芸施設共済

引受戸数は、2,746戸（対前年比100.7%）、引受棟数7,884棟（対前年比98.8%）、共済金額は124億5千7百万余円（対前年比94.5%）となった。前年度と比べて戸数については、集団加入割引が実施されたことにより増加となったが、棟数、共済金額については、農家の高齢化及び後継者不足による規模縮小により減少となった。

被害棟数は、風害26棟、平成30年10月の台風24号、令和元年9月の台風15号、10月の19号等による風水害211棟（うち21棟は前年度事故にかかる撤去復旧費用支払分）、雪害45棟、落雷17棟、その他4棟、病虫害（施設内農作物）29棟、合計332棟（対前年比52.9%）であった。支払共済金は45,511千余円（対前年比61.4%）となった。

## 6 任意共済

建物共済は、引受共済金額1兆4,372億余円を目標に、仕組み改善による総合共済の補償拡充を活かした提案型の加入推進を図った結果、引受共済金額1兆4,047億余円（対前年比95.7%）となった。その内訳は、火災共済1兆3,409億余円、総合共済638億余円の成績となった。

農機具損害共済は、機種ごとの新調達価額に見合った共済金額の増額加入やトラクタ一等の盗難に備えた加入推進に努めた結果、引受共済金額は、損害共済で219億余円（対前年比104.6%）、農機具更新共済は、新規契約650万円と合わせた年度末保有共済金額は1億7,270万円（対前年比69.7%）となり、任意共済事業の総共済金額は1兆4,268億余円となった。

事故は、建物共済では落雷や台風15号及び19号による風水害、火災、盗難による毀損・汚損などにより事故棟数602棟、支払共済金477,426千余円（対前年比106.4%）となり、前年度に比べ増加した。農機具損害共済は、台風19号による水没や接触、盗難による盗取などにより、事故台数237台、支払共済金109,401千余円（対前年比146.5%）となり、前年度に比べ増加した。農機具更新共済では、事故による支払共済金はなかったが、期間満了台数74台、農機具減価共済金62,400千円（対前年比59.2%）となり、任意共済事業の総支払共済金は649,228千余円であった。

## 7 農業経営収入保険

令和元年度の引受については、目標数1,500経営体には大きく下回る結果となったが、経営体数は前年対比258.5%（473経営体）、補償額は前年対比342.7%（6,337,848千円）と増加した。

関係機関協力のもと収入保険を説明する機会が増え、また、台風19号により災害救助法の適用を受けた地域が63市町村中48市町村あり、国の指導のもと11月17日～23日まで「加入申請受付会」を開催し、加入増加に結び付けた。

## II 事業の実績

### 1 農作物共済関係

#### (1) 引受

年産	共済目的		組合員数	引受面積
元年産	水 稲	一 筆 方 式	人 21,184	a 2,041,147
		品 質 方 式	1	124
		計	21,185	2,041,271
	陸 稲			
	麦	一 筆 方 式	367	380,625
		災 害 収 入 共 済 方 式	149	74,109
		計	516	454,734
合 計		延 実 21,701 20,161	2,496,005	
2年産	麦	一 筆 方 式	334	356,120
		災 害 収 入 共 済 方 式	124	59,147
		計	458	415,267

#### (引受概要)

水稲の引受面積は、一筆方式20,411ha、品質方式1.2ha、合計20,412ha（前年対比78.2%）、共済金額11,697,791千円（前年対比80.0%）となった。一筆方式10a当たりの共済金額は57,304円、同農家負担共済掛金25円、品質方式10a当たりの共済金額は86,332円、同農家負担共済掛金114円となった。

陸稲は引受がなかった。

#### (2) 被 害

共済目的		被害組合員数	共済金	共 済 金 共済金額
水稲	一 筆 方 式	人 313	円 19,517,160	% 0.2
	品 質 方 式			
	計	313	19,517,160	0.2
陸 稲				
麦	一 筆 方 式	69	4,963,916	0.6
	災 害 収 入 共 済 方 式	50	14,069,274	4.1
	計	119	19,033,190	1.6
合 計		延 432	38,550,350	0.3

#### (3) 支 払

共済目的		支払月日	実支払共済金	共 保 険 金
水稲	一 筆 方 式	12月24日	円 19,517,160	円
	品 質 方 式			
	計		19,517,160	
陸 稲				
麦	一 筆 方 式	9月19日	4,963,916	
	災 害 収 入 共 済 方 式	12月24日	14,069,274	
	計		19,033,190	
合 計			38,550,350	

#### (4) 損害防止

県が実施している病害虫発生予察情報等を広報紙・ホームページにおいて紹介した他、水稲種もみの温湯消毒、病害虫等防除薬剤費または鳥獣害対策資材購入経費の一部を助成した。

共済金額	徴収共済掛金	交付金又は 納入保険料(△)	手持共済掛金
円	円	円	円
11,696,720,508	5,180,490		
1,070,528	1,418		
11,697,791,036	5,181,908		
818,449,684	14,696,727		
344,524,130	12,052,099		
1,162,973,814	26,748,826		
12,860,764,850	31,930,734	26,411,193	58,341,927
815,303,659	14,511,387		
270,314,031	9,777,049		
1,085,617,690	24,288,436		

麦の引受面積は、一筆方式3,561ha、災害収入共済方式591ha、合計4,152ha（前年対比91.3%）、共済金額1,085,617千余円（前年対比93.3%）となった。一筆方式10a当たりの共済金額は22,894円、同農家負担共済掛金407円、災害収入共済方式10a当たりの共済金額は45,702円、同農家負担共済掛金1,653円となった。

（被害概要）

水稻は、当初高温により登熟不良が懸念されたが、注意喚起には至らなかった。被害は台風15号、19号による風水害のほか、降雨、日照不足によるいもち病や縞葉枯病の発生、イノシシ等による獣害、スクリゴガイ等の虫害の被害を受けた。

麦は、全麦類、初期生育期に極端な乾燥による干害、二条・六条大麦では3月の降霜による凍霜害によって被害を受けた。

濟 金 支 払 財 源				実支払共済金
手持掛金充当額	法定積立金充当額	特別積立金充当額	その他	共 済 金
円	円	円	円	%
10,248,650				100.0
10,248,650				100.0
4,963,916				100.0
14,069,274				100.0
19,033,190				100.0
29,281,840	9,268,510			100.0

## 2 家畜共済関係

### (1) 引受

区分		項目	組合員数	有資格頭数	事業計画 頭数①	引受頭数②	② ①
			人	頭	頭	頭	%
死亡 廃用 共済	搾乳牛		147	6,685	5,792	6,000	103.6
	育成乳牛		136	7,642	4,922	3,097	62.9
	繁殖用雌牛		52	1,100	644	707	109.8
	育成・肥育牛		130	16,318	2,268	3,212	141.6
	繁殖用雌馬						
	育成・肥育馬						
	種豚		8	4,864	600	524	87.3
	肉豚		4	73,771	3,100	2,124	68.5
	種雄牛 種雄馬 計		477	110,380	17,326	15,664	90.4
疾病 傷害 共済	乳用牛		161	9,285	7,023	6,932	98.7
	肉用牛		129	15,951	1,216	1,736	142.8
	一般馬						
	種豚		6	4,864	530	366	69.1
	種雄牛 種雄馬 計		296	30,100	8,769	9,034	103.0
合計			773	140,480	26,095	24,698	94.6

#### (引受概要)

新制度の説明をし、農家のニーズに合った引受方式を提案した。酪農家には胎児・子牛の品種が対象となる死廃共済と過去の治療費に見合った病傷共済加入を推進。

### (2) 事故

区分	項目	死亡廃用共済			支払共済金 円
		死亡頭数	廃用頭数	総頭数	
搾乳牛		289	421	710	90,825,844
育成乳牛		122	15	137	9,282,308
乳牛の雌等(旧)		60	63	123	11,683,216
繁殖用雌牛		10	5	15	2,158,709
育成・肥育牛		168	3	171	10,731,511
肉用牛(旧)		8		8	996,910
繁殖用雌馬					
育成・肥育馬					
種豚		20	16	36	1,359,506
種豚(旧)		3	2	5	136,378
肉豚		336		336	2,332,420
肉豚(旧)		74		74	537,507
種雄牛 種雄馬 計		1,090	525	1,615	130,044,309

### (3) 損害防止

区分	実施種目	対象頭数	経費概算
		頭	円
特定損害防止			
一般損害防止	予防衛生措置	18,052	2,115,720

一般損害防止事業実施要領に基づき、乳牛に対しては蹄疾患の予防剤や乳房炎検査薬等を配布、肉用牛に対しては消化器疾患予防の生菌剤を、豚に対しては感染症を予防する意味で除菌剤を配布した。

### (4) 診療所

診療所名	職員数	管内(肉豚を除く)		共済事故
		有資格頭数	加入頭数	
家畜診療所	7人	30,100頭	9,034頭	2,304頭



共済金額	徴収共済掛金	交付金又は 納入保険料(△)	手持共済掛金
円 1,131,353,510	円 49,989,675	円	円
569,802,025	3,535,460		
115,518,120	1,166,819		
414,651,350	4,902,898		
25,963,500	736,312		
16,600,000	1,492,522		
2,273,888,505	61,823,686	61,284,817	123,108,503
134,707,306	45,494,861		
18,224,861	4,186,942		
351,639	22,699		
153,283,806	49,704,502	49,810,676	99,515,178
2,427,172,311	111,528,188	111,095,493	222,623,681

また、危険段階別掛金率の趣旨を説明し家畜診療所の協力のもと、戸別推進に努めた。

区分	項目	疾病傷害共済	
		件数	支払共済金
		件	円
乳用牛		5,484	80,888,480
乳牛の雌等(旧)		2,545	29,928,620
肉用牛		711	7,260,434
肉用牛(旧)		260	3,124,950
一般馬			
種豚		14	47,710
種豚(旧)		1	2,280
種雄牛			
種雄馬			
計		9,015	121,252,474

(被害概況)

死亡廃用事故は昨年度より頭数減少し死廃共済金は前年比96.1%と減少した。病傷共済金は前年比99.8%であった。

摘 要			
蹄浴剤、乳房炎検査薬、消炎剤	1,628,640 円	生菌製剤	388,800 円
除菌剤	98,280 円		

診療件数		損害防止事業			摘要
事故外	診療外	一般	特損	経費概算	
頭	頭	頭	頭	円	
94	2,538	18,052	—	2,115,720	

### 3 果樹共済関係

#### (1) 引受

年度	果樹区分		組合員数	引受面積	共済金額
30	なし	半相殺減収総合短縮方式	222	5,270.8	267,763,000
		樹園地単位減収総合短縮方式	51	1,943.9	89,157,000
		計	273	7,214.7	356,920,000
元年	ぶどう	半相殺減収総合短縮方式	31	453.2	28,590,000
		半相殺特定危険(ひょう害)方式	16	444.4	31,250,000
		樹園地単位減収総合短縮方式	7	155.0	9,167,000
		計	54	1,052.6	69,007,000
合計			327	8,267.3	425,927,000
元年	なし	半相殺減収総合短縮方式	201	4,929.1	252,949,000
		樹園地単位減収総合短縮方式	39	1,478.7	70,493,000
		計	240	6,407.8	323,442,000

#### (引受概要)

令和2年産のなしの引受については、高齢化や後継者不足等厳しい状況の中、果樹共済支部長推進会議を開催し引受の協力をいただき職員推進を行うが、引受面積は半相殺減収総合短縮方式については、前年対比93.5%、樹園地単位減収総合短縮方式については、前年対比76.1%、全体で前年対比88.8%と減少した。

#### (2) 被害

果樹区分		被害組合員数	共済金	共済金 共済金額	
なし		人	円	%	
		半相殺減収総合短縮方式	62	11,579,740	4.3
		樹園地単位減収総合短縮方式	6	653,530	0.7
	計	68	12,233,270	3.4	
ぶどう		半相殺減収総合短縮方式	9	3,339,040	11.7
		減収ひょう害方式			
		樹園地単位減収総合短縮方式	1	436,660	4.8
	計	10	3,775,700	5.5	
合計		78	16,008,970	3.8	

#### (3) 支払

果樹区分		支払月日	実支払共済金	保 険 金	
なし			円	円	
		半相殺減収総合短縮方式	12月18日	11,579,740	6,628,535
		樹園地単位減収総合短縮方式	12月18日	653,530	375,892
	計		12,233,270	7,004,427	
ぶどう		半相殺減収総合短縮方式	12月18日	3,339,040	1,916,133
		減収ひょう害方式			
		樹園地単位減収総合短縮方式	12月18日	436,660	247,539
	計		3,775,700	2,163,672	
合計			16,008,970	9,168,099	

#### (4) 損害防止

県が実施している病害虫発生予察情報等を広報紙・ホームページにおいて紹介した他、病虫害防除等に使用した薬剤購入経費、鳥獣害対策資材購入経費の一部を助成した。

徴収共済掛金	交付金又は 納入保険料 (△)	手持共済掛金
円	円	円
4,937,564	△ 311,045	4,660,988
804,046	74,798	878,844
5,741,610	△ 236,247	5,539,832
319,143	96,181	415,324
80,919	58,310	139,229
70,985	37,703	108,688
471,047	192,194	663,241
6,212,657	△ 44,053	6,203,073
4,389,632	△ 276,158	4,113,474
617,835	57,348	675,183
5,007,467	△ 218,810	4,788,657

(被害及び評価概況)

なし栽培農家において、5月4日県中央部を中心とする降ひょう、梅雨明け直後の高温、猛暑による日焼け、その他虫害が発生した。被害はひょう害により久喜市他4市1町で傷果が発生、その他気象上の災害（日焼け）により宮代町他4市1町で日焼け果が発生し、虫害（カメムシ、シンクイムシ）により富士見市他4市1町でそれぞれ減収した。

また、ぶどう栽培農家において、約2か月間の長梅雨を原因とする病害や、猛暑による日焼け、ひょう害、虫害が発生した。被害は病害(灰色カビ病、晩腐病)が秩父市他2市2町で発生、その他上尾市でひょう害、長瀨町でカメムシによる虫害、秩父市他1市でその他気象上の災害（日焼け）によりそれぞれ減収した。

共 済 金 支 払 財 源				実支払共済金
手持掛金充当額	法定積立金充当額	特別積立金充当額	その他	共 済 金
円	円	円	円	%
4,660,988	290,217			100.0
277,638				100.0
4,938,626	290,217			100.0
415,324	1,007,583			100.0
108,688	80,433			100.0
524,012	1,088,016			100.0
5,462,638	1,378,233			100.0

#### 4 畑作物共済関係

##### (1) 引 受

年度	畑作物区分		項目	組合員数	引受面積 (共済箱数)	共済金額
30	茶	半相殺方式		人	a(箱)	円
		災害収入共済方式		41	1,794.3	11,465,300
		計		41	1,794.3	11,465,300
元年	大豆	半相殺・一筆方式		9	4,987.7	7,898,532
		全相殺方式		27	12,883.6	17,992,301
		計		36	17,871.3	25,890,833
	茶	半相殺方式		29	1,408.3	9,302,320
		災害収入共済方式				
		計		29	1,408.3	9,302,320
	スイートコーン			15	871.0	13,859,228
	蚕繭	春 蚕 繭		15	45.76	3,040,710
		初 秋 蚕 繭		9	21.57	1,282,170
		晩 秋 蚕 繭		15	35.17	2,033,460
計			39	102.50	6,356,340	
合 計			延実	119		
				88	20,150.6	55,408,721

##### (引受概要)

大豆：引受戸数36戸、引受面積前年対比59.3%（収入保険移行者含める前年対比92.3%）一筆方式10a当たりの共済金額は15,836円、同農家負担共済掛金は354円、全相殺方式10a当たりの共済金額は13,965円、同農家負担共済掛金は634円となった。  
 茶：引受戸数29戸、引受面積前年対比78.5%、10a当たりの共済金額は66,053円、同農家負担共済掛金は1,246円となった。

##### (2) 被 害

畑作物区分		項目	被害組合員数	共済金	共済金 共済金額
大豆	半相殺・一筆方式		人	円	%
	全相殺方式		6	277,308	3.5
	計		20	5,717,844	31.8
茶	半相殺方式		16	1,451,460	12.7
	災害収入共済方式				
	計		16	1,451,460	12.7
スイートコーン			5	225,185	1.6

##### (被害概要)

大豆：8月上旬の高温乾燥、台風10号による土壌湿潤害、台風15号、19号による雨害湿潤害及び風水害により減収した。  
 茶：凍霜害により減収した。  
 スイートコーン：凍霜害、干害及び獣害により減収となった。

##### (3) 支 払

畑作物区分		項目	支払月日	実支払共済金	共 済 金	
					保険金	手持掛金充当額
大豆	半相殺・一筆方式		2月6日	円	円	円
	全相殺方式		3月26日	277,308		212,240
	計			5,717,844		1,043,104
茶	半相殺方式		8月28日	5,995,152		1,255,344
	災害収入共済方式			1,451,460		143,107
	計			1,451,460		143,107
スイートコーン			10月23日	225,185		199,429
蚕繭	春 蚕 繭		8月15日	16,590		11,181
	初 秋 蚕 繭					
	晩 秋 蚕 繭		12月10日	30,810		23,329
	計			47,400	34,510	
合 計				7,719,197	4,404,960	1,632,390

##### (4) 損害防止

県が実施している病害虫発生予察情報等を広報紙・ホームページにおいて紹介した他、病虫害防除等に使用した薬剤購入経費または鳥獣害対策資材購入経費の一部を助成

徴収共済掛金	交付金又は 納入保険料 (△)	手持共済掛金
円 240,867	円	円
240,867	△ 97,760	143,107
176,997		
817,873		
994,870		
175,603		
175,603		
178,369		
9,768		
16,699		
17,179		
43,646		
1,392,488	303,612	1,696,100

スイートコーン：引受戸数15戸、引受面積前年対比70.7%、10a当たりの共済金額は159,118円、同農家負担共済掛金は2,047円となった。

蚕繭：引受戸数15戸、引受箱数前年対比48.9%、春蚕繭1箱当たりの共済金額は66,449円、同農家負担共済掛金213円、初秋蚕繭1箱当たりの共済金額は59,442円、同農家負担共済掛金774円、晩秋蚕繭1箱当たりの共済金額は57,818円、同農家負担共済掛金488円となった。

畑作物区分		項目	被害組合員数	共済金	共済金 共済金額
蚕繭	春	蚕繭	人 1	円 16,590	% 0.5
	初秋	蚕繭	0	0	0.0
	晩秋	蚕繭	1	30,810	1.5
		計	2	47,400	0.7
合計		延実	49 47	7,719,197	13.4

蚕繭：春蚕繭で病害（膿病）晩秋蚕で病害（軟化病）により減収となった。

支払財源			実支払共済金
法定積立金充当額	特別積立金充当額	その他	共済金
円	円	円	%
			100.0
			100.0
			100.0
			100.0
			100.0
			100.0
			100.0
			100.0
1,681,847			100.0

5 園芸施設共済関係

(1) 引 受

施設区分		項 目		組合員数	引受棟数	設置面積	特定園芸施設
		種 別	種 別				
ガラス	I 類			人	棟	m <sup>2</sup>	千円
	II 類			127	215	151,394	1,430,894
プラスチック	I 類						
	II 類			1,406	5,708	1,124,399	2,322,616
	III 類			128	151	135,094	419,268
	IV類 (甲)			543	770	718,638	3,525,185
	IV類 (乙)			294	418	404,165	2,115,381
	V 類			94	145	87,613	526,640
	VI 類			16	161	23,877	39,839
VII 類			138	316	607,985	259,799	
合 計				2,746	7,884	3,253,165	10,639,622

施設区分		項 目		共 済 金	
		特定園芸施設	特定園芸施設 復旧費用	附帯施設	附帯施設 復旧費用
ガラス	I 類	千円	千円	千円	千円
	II 類	1,144,631	157,831	58,183	9,100
プラスチック	I 類				
	II 類	1,855,809	128,397	172,900	33,994
	III 類	335,353	27,036	78,218	12,486
	IV類 (甲)	2,819,520	286,114	638,768	121,067
	IV類 (乙)	1,692,136	139,329	336,072	53,648
	V 類	421,254	57,002	79,771	21,754
	VI 類	31,811	5,142	0	0
VII 類	207,716	9,154	0	0	
合 計		8,508,230	810,005	1,363,912	252,049

(引受概要)

引受戸数は、2,746戸（対前年比100.7%）、引受棟数7,884棟（対前年比98.8%）、共済金額は124億5千7百万円（対前年比94.5%）で、前年度との比較では、戸数について

(2) 被 害

施設区分		被 害			損害の額
		組合員数	棟 数	附帯施設数	
ガラス	I 類	人	棟	基	円
	II 類	10	10	1	2,621,017
プラスチック	I 類				
	II 類	101	178	19	20,959,923
	III 類	5	5	0	399,925
	IV類 (甲)	42	47	26	11,109,541
	IV類 (乙)	16	20	18	5,313,412
	V 類	8	10	5	770,455
	VI 類	0	0	0	0
VII 類	31	62	0	15,774,037	
合 計		213	332	69	56,948,310

(被害及び評価概況)

被害は、自然災害等では風害で26棟、平成30年10月1日の台風24号（撤去復旧費用）、令和元年9月9日の台風15号及び10月12日の台風19号を含む風水害で211棟、3月29日の降雪で45棟、落雷で17棟、その他で4棟。

(3) 支 払

実支払共済金	共 済 金 支 払		
	保険金	手持掛金充当額	法定積立金充当額
円 45,511,256	円 7,605,102	円 35,878,837	円

(4) 損害防止

県が実施している病虫害発生予察情報等を広報紙・ホームページにおいて紹介した。

共 済 価 額					
特定園芸施設 復旧費用	附帯施設	附帯施設 復旧費用	施設内農作物	撤去費用	合計
千円	千円	千円	千円	千円	千円
197,312	72,737	11,379	85,214	85,262	1,882,798
161,243	216,771	42,809	240,387	119,692	3,103,518
33,810	97,786	15,615	62,331	45,980	674,790
357,750	798,540	151,384	388,474	370,187	5,591,520
174,213	420,133	67,079	244,033	174,878	3,195,717
71,281	99,725	27,207	20,931	45,862	791,646
6,507	0	0	0	5,343	51,689
11,457	0	0	0	18,196	289,452
1,013,573	1,705,692	315,473	1,041,370	865,400	15,581,130

額			徴収共済掛金	交付金又は 納入保険料 (△)	手持共済掛金
施設内農作物	撤去費用	合計			
千円	千円	千円	円	円	円
68,156	68,167	1,506,068	2,250,771	728,982	2,979,753
192,046	95,004	2,478,150	23,253,725	△9,318,646	13,935,079
49,847	36,763	539,703	5,536,361	△3,703,293	1,833,068
310,689	295,923	4,472,081	15,931,729	△9,419,201	6,512,528
195,176	139,839	2,556,200	11,196,994	△4,809,956	6,387,038
16,738	36,660	633,179	1,863,857	△116,784	1,747,073
0	4,218	41,171	973,981	△426,077	547,904
0	14,546	231,416	1,300,836	635,558	1,936,394
832,652	691,120	12,457,968	62,308,254	△26,429,417	35,878,837

は増加したが、棟数及び共済金額については農家の高齢化及び後継者不足による規模縮小、また共済掛金等の増高により減少となった。

共 済 金					共済金 共済金額
特定園芸施設	附帯施設	施設内農作物	撤去復旧費用	合 計	%
円	円	円	円	円	
299,973	123,840	1,497,315	175,682	2,096,810	0.14
9,413,611	1,985,550	3,541,289	1,790,446	16,730,896	0.68
319,939	0	0	0	319,939	0.06
1,504,190	1,352,357	5,943,440	86,874	8,886,861	0.20
534,485	1,397,688	2,164,324	154,228	4,250,725	0.17
354,870	26,524	234,966	0	616,360	0.10
0	0	0	0	0	
12,609,665	0	0	0	12,609,665	5.45
25,036,733	4,885,959	13,381,334	2,207,230	45,511,256	0.37

また、施設内農作物の病虫害は29棟で、合計332棟（対前年比52.9%）で、支払共済金は、45,511千余円（対前年比61.4%）となった。

財 源		実支払共済金 共 済 金
特別積立金充当額	その他	
円	円	%
	2,027,317	100.0

6 任意共済関係

(1) 建物共済

ア 引受

区分	項目	加入棟数	共 済 金 額	共 済	
				純共済掛金	
		棟	円		円
	火 災 共 済	111,497	1,340,900,410,000	578,045,643	
	総 合 共 済	10,188	63,836,410,000	112,992,818	
	合 計	121,685	1,404,736,820,000	691,038,461	

(注) 総共済掛金額 1,238,622,307円

保険割合 火災共済及び総合共済（地震以外）30%、総合共済（地震等）50%

(引受概要)

建物共済全体の加入棟数は、121,685棟（前年対比95.7%）、共済金額1兆4,047億余円（前年対比95.7%）と前年に比べ減少したが、自然災害を対象とした総合共済の引受拡大に重点を置き推進した結果、総合共済加入棟数10,188棟（前年対比103.2%）、総合共済共済金額638億余円（前年対比113.3%）と増加した。

イ 事 故

事 故 棟 数	加入総共済金額 (イ)	支 払 共	
		火 災	
棟	円		円
602	7,210,450,000	366,126,428	

(事故概況)

事故棟数は、落雷が最も多く、次いで台風15号及び19号による風水害が多かった。事故原因別の支払共済金は、台風15号及び19号による風水害や漏電による火災の支払が多かった。

ウ 原因別事故

事 故 原 因 別		事故棟数	加入総共済金額 (イ)
火 災 (拡張担保を含む)	落 雷	棟 223	円 3,302,700,000
	盗 難 に よ る 汚 毀 損	54	606,100,000
	給 排 水 設 備	20	605,800,000
	不 明 ・ 調 査 中	14	130,600,000
	車 両 の 飛 び 込 み	13	239,500,000
	外 部 か ら の 落 下 等	9	111,600,000
	類 焼	8	55,000,000
	漏 電	8	107,000,000
	た ば こ	5	83,000,000
	そ の 他 の 電 気 器 具	5	65,500,000
	焚 火	5	43,000,000
	そ の 他	5	86,400,000
自 然 災 害	台 風	188	1,424,050,000
	強 風	14	100,500,000
	そ の 他	31	249,700,000
合 計		602	7,210,450,000



掛 金 組合事務費	1棟当り平均 共済金額	建物保険料	保険手数料収入
円	円	円	円
472,816,303	12,030,000	315,046,465	127,604,769
74,767,543	6,270,000	74,713,880	26,375,958
547,583,846	11,540,000	389,760,345	153,980,727

済 金 (口) 風水害等	建物保険金	被害率 (口) / (イ)	備 考
円	円	%	
111,300,369	143,227,802	6.6	

支払共済金 (口)	建物保険金	被害率 (口) / (イ)	備 考
円	円	%	
37,340,386	11,202,020	1.1	
4,304,351	1,291,292	0.7	
14,612,183	4,383,647	2.4	
74,531,254	22,359,373	57.1	
2,396,933	719,076	1.0	
1,392,746	417,822	1.2	
9,090,922	2,727,273	16.5	
88,980,854	26,694,252	83.2	
25,727,836	7,718,349	31.0	
54,872,386	16,461,715	83.8	
22,145,168	6,643,549	51.5	
30,731,409	9,219,419	35.6	
102,541,404	30,762,343	7.2	
1,840,701	552,206	1.8	
6,918,264	2,075,466	2.8	
477,426,797	143,227,802	6.6	

(2) 農機具損害共済

ア 引受

加入台数	共済金額	共 済	
		純共済掛金	
台	円	円	円
11,288	21,954,800,000	98,232,091	

(引受概要)

未加入農機具の加入推進と補償の充実を図るため、新調達価額までの加入共済金額の引上げ推進に努めた。加入台数は、11,288台（前年対比100.6%）共済金額219億5千万余円（前年対比104.6%）と増加した。

イ 事故

事故台数	加入総共済金額 (イ)	支払共済金 (ロ)
台	円	円
237	707,830,000	109,401,587

(事故概況)

事故原因別では、稼働中の接触が最も多く、次いで異物の巻き込み、台風19号による水没が多かった。格納中7件の盗難等事故が発生したが、3件がトラクターの被害であった。

ウ 原因別事故

事故原因別		事故台数	加入総共済金額 (イ)
格納中	台	台	円
	風	36	63,600,000
	等	7	10,350,000
稼働中	その他	10	40,500,000
	接	105	401,430,000
	触	38	93,550,000
	異物の巻き込み	9	13,750,000
	衝突	7	11,050,000
	転覆	4	9,150,000
墜落	21	64,450,000	
その他			
合計		237	707,830,000

7 農機具更新共済関係

(1) 引受

加入台数	共済金額	減価共済金額
台	円	円
96	172,700,000	132,350,000

(引受概要)

共済責任期間満了となった農機具については、損害共済への加入推進を行なった。

(2) 事故

事故台数	期間満了等台数	加入総共済金額 (イ)	支	
			火災・風水害等 (ロ)	
台	台	円	円	円
0	74	0	0	0

(事故概況)

事故による共済金の支払いはなかった。  
共済責任期間満了による減価共済金として、6,240万円の支払を行なった。

掛 金	1 台当り平均 共済金額
組合事務費	
円	円
36,708,039	1,940,000

被害率 (ロ) / (イ)	備考
% 15.5	

支払共済金 (ロ)	被害率 (ロ) / (イ)	備 考
円	%	
43,628,822	68.6	
5,809,479	56.1	
6,847,760	16.9	
27,658,571	6.9	
9,510,363	10.2	
6,327,154	46.0	
2,874,431	26.0	
1,475,201	16.1	
5,269,806	8.2	
109,401,587	15.5	

共 済 掛 金	掛 金
純 共 済 掛 金	組 合 事 務 費
円	円
19,844,205	790,800

払 共 済 金	被害率 (ロ)/(イ)	
期間満了によるもの	計	
円	円	%
62,400,000	62,400,000	0.0

## 8 農業経営収入保険受託事業関係

### (1) 引受関係

経営形態	加入経営体数	基準収入	補償額
	経営体	千円	千円
個人経営体	418	5,753,487	4,577,019
法人経営体	55	2,203,168	1,760,829
計	473	7,956,655	6,337,848

## 9 業務関係

### (1) 重要な処理事項

年月日	処理事項
平成31年	
4月1日	辞令交付
4月16日	新規採用職員研修会（～19日）
4月19日	都道府県農業保険主管課長会議及び農業共済団体参事会議
4月23日	茶巡回調査
令和元年	
5月7日	余裕金運用管理委員会
5月10日	関東地区参事会議
5月17日	監事会、決算監査（20日・22日）
5月28日	麦巡回調査（及び6月3日）
5月30日	理事会、研修基金運用管理委員会
6月3日	情報化推進委員会
6月11日	スイートコーン巡回調査
6月13日	第3回通常総代会
6月25日	NOSAI協会通常総会、NOSAI全国連通常総会、全国会長・特定組合長会議
7月10日	全国参事会議
7月16日	果樹巡回調査
7月25日	コンプライアンス改善委員会
7月30日	収入保険に関する研修会
8月1日	損害評価会全体会議、畑作物共済第三部会、園芸施設共済部会
8月6日	損害評価会畑作物共済第二部会
8月9日	理事会、役員研修会、余裕金運用管理委員会
8月20日	収入保険に関する研修会
9月2日	収入保険に係る組合職員研修会
9月4日	NOSAI全国連臨時総会、全国会長・特定組合長会議、収入保険に関する研修会
9月5日	損害評価会農作物共済部会
9月19日	水稻巡回調査
9月24日	監事会
9月26日	退職給与金施設運用管理委員会

(令和2年3月31日現在)

納 入 額			
保険料	積立金	事務費負担金	納入保険料等
円	円	円	円
42,707,279	123,516,728	11,727,934	177,951,941
16,656,505	45,819,503	4,108,297	66,584,305
59,363,784	169,336,231	15,836,231	244,536,246

年月日	処理事項
10月4日	常例検査（現物検査）
10月7日	損害評価会畑作物共済第一部会、大豆巡回調査
10月9日	全国参事会議
10月10日	収入保険・園芸施設共済加入推進キャラバン
10月24日	制度70周年記念任意共済全国研修会
11月1日	余裕金運用管理委員会、土地等処分・取得適正化委員会、情報化推進委員会
11月6日	常例検査（～15日）
11月11日	監事会、中間監査（12日・14日）
11月16日	彩の国食と農林業ドリームフェスタ（～17日）
11月25日	理事会
12月3日	全国NOSAI大会
12月4日	損害評価会果樹共済部会
12月9日	臨時総代会、損害評価会農作物共済部会
12月18日	退職給与金施設運用管理委員会
令和2年	
1月24日	都道府県農業保険制度関係担当者及び農業共済組合連合会等総務・指導担当者合同会議
1月27日	損害評価会畑作物共済第一部会
1月28日	損害評価会家畜共済部会、家畜診療所運営委員会
2月3日	余裕金運用管理委員会、土地等処分・取得適正化委員会
2月10日	関東地区参事会議
2月14日	理事会
2月18日	埼玉県農業保険推進協議会
2月19日	全国参事会議
2月21日	退職給与金施設運用管理委員会
3月11日	臨時総代会（書面議決）
3月16日	損害評価会畑作物共済第一部会
3月18日	埼玉県収入保険推進協議会設立検討会
3月27日	理事会（書面議決）
3月31日	退職辞令交付

## (2) 総 代 会

### ア 通常総代会

と き 令和元年6月13日

ところ 比企郡吉見町フレサよしみ

総代会日現在総代数 (A)	189 人	出席率
本人出席 (B)	112 人	(B) / (A) 59.3 %
代理出席	0 人	
書面出席	73 人	
出席者計 (C)	185 人	(C) / (A) 97.9 %

### 重要な議事及び議決事項

- |   |     |
|---|-----|
| (1) 平成30年度事業報告書、財産目録、貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分案について                          | 可 決 |
| (2) 令和元年度事業計画設定並びに事務費賦課額及び徴収方法について                                    | 可 決 |
| (3) 役員報酬について  | 可 決 |
| (4) 損害評価会委員、共済支部長及び顧問報酬について   | 可 決 |
| (5) 損害評価会委員及び家畜診療所運営委員選任について  | 可 決 |
| (6) 余裕金預入先金融機関について  | 可 決 |
| (7) 借入金最高限度額について  | 可 決 |
| (8) 定款の一部改正について   | 可 決 |
| (9) 事業規程の一部改正について   | 可 決 |
| (10) 建物総合共済の連合会等(特定組合)保有責任部分の一部を全国連合会の再保険(保険)に付すこと及びこれに伴う基本契約書の変更について | 可 決 |
| (11) 事業実施体制改善計画について   | 可 決 |

### イ 臨時総代会

と き 令和元年12月9日

ところ 埼玉県農業共済会館

総代会日現在総代数 (A)	188 人	出席率
本人出席 (B)	20 人	(B) / (A) 10.6 %
代理出席	0 人	
書面出席	167 人	
出席者計 (C)	187 人	(C) / (A) 99.5 %

重要な議事及び議決事項

- (1) 事業規程の一部改正について 可 決  
 (2) 家畜共済危険段階別共済掛金率の設定について 可 決

ウ 臨時総代会

と き 令和2年3月11日  
 ところ 埼玉県農業共済会館

総代会日現在総代数 (A)	187 人	出席率
本人出席 (B)	0 人	(B) / (A) 0.0 %
代理出席	0 人	
書面出席	186 人	
出席者計 (C)	186 人	(C) / (A) 99.5 %

重要な議事及び議決事項

- (1) 令和元年度収支予算補正について 可 決  
 (2) 事業規程の一部改正について 可 決  
 (3) 職員退職給与規則の一部改正について 可 決

(3) 組合員の増減 (人)

年度始組合員数	年度末組合員数	増 減 (△)	摘 要
78,513	75,217	△3,296	

(4) 役職員その他

ア 役職員 (人)

役員数	理 事			監 事	合 計
	常勤 0	非常勤 21	計 21	4	25
職員数			職 員	嘱託・臨時・派遣	合 計
	男		136	12	148
	女		34	11	45
	合 計		170	23	193

(ア) 本所職員数

(人)

	参 事	監 査 室 兼 収 入 保 険 対 策 室	総務部			事業第一部			事業第二部			合 計			
			部 長	総 務 課	経 理 課	企 画 情 報 課	部 長	次 長	農 産 課	果 樹 園 芸 課	部 長		建 物 課	家 畜 課	家 畜 診 療 所
男	1	4	1	5	2	2	1	1	4	4 (1)	1	3	2	6	36
女	0	1	0	1	1	1	0	0	1	0	0	1	2	0	8
計	1	4	1	6	3	3	1	1	5	4 (1)	1	4	4	6	44

( )は兼務 合計欄は兼務を除く

(イ) 中部統括職員数

(人)

	統 括 支 所 長	中部統括支所					東 松 山 支 所	上 尾 支 所	合 計
		次 長	総 務 課	収 入 保 険 課	園 芸 課	農 産 果 樹 課			
男	1	1	2	3 (1)	9 (1)	5	8	8	35
女	0	0	2	0	2	2	1	2	9
計	1	1	4	3 (1)	11 (1)	7	9	10	44

( )は兼務 合計欄は兼務を除く

(ウ) 北部統括職員数

(人)

	統 括 支 所 長	北部統括支所					本 庄 支 所	秩 父 支 所	合 計
		次 長	総 務 課	収 入 保 険 課	園 芸 課	農 産 果 樹 課			
男	1	0	2	4 (1)	8 (1)	10	8	4	35
女	0	0	2	0	1	2	2	2	9
計	1	0	4	4 (1)	9 (1)	12	10	6	44

( )は兼務 合計欄は兼務を除く



(エ) 東部統括職員数

(人)

	統括支所長	東部統括支所					宮代支所	越谷支所	合計
		次長	総務課	収入保険課	園芸課	農産果樹課			
男	1	1	2	4 (2)	9 (1)	4	11	4	30
女	0	0	1	0	2	1	3	1	8
計	1	1	3	4 (2)	11 (1)	5	14	5	38

( )は兼務 合計は兼務を除く

(オ) 嘱託・臨時・派遣職員数

(人)

		本所	中部統括支所	東松山支所	上尾支所	北部統括支所	本庄支所	秩父支所	東部統括支所	宮代支所	越谷支所	家畜診療所	合計
		嘱託	男	0	1	1	1	0	1	0	1	1	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨時	男	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	4
	女	2	1	1	1	0	0	0	1	1	0	1	8
派遣	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3
合計		3	3	2	2	0	2	0	3	2	2	4	23

イ 総代、共済支部長、損害評価会委員、損害評価員

(人)

総代	共済支部長	損害評価会委員	損害評価員
189	5,518	217	2,723